

近年の高齢者

8020運動により、20歯以上残存歯を保つ人の増加

歯周炎、補綴（さし歯、義歯）の疾患などの発症増加

噛めない、口の渇き、むせを訴える傾向

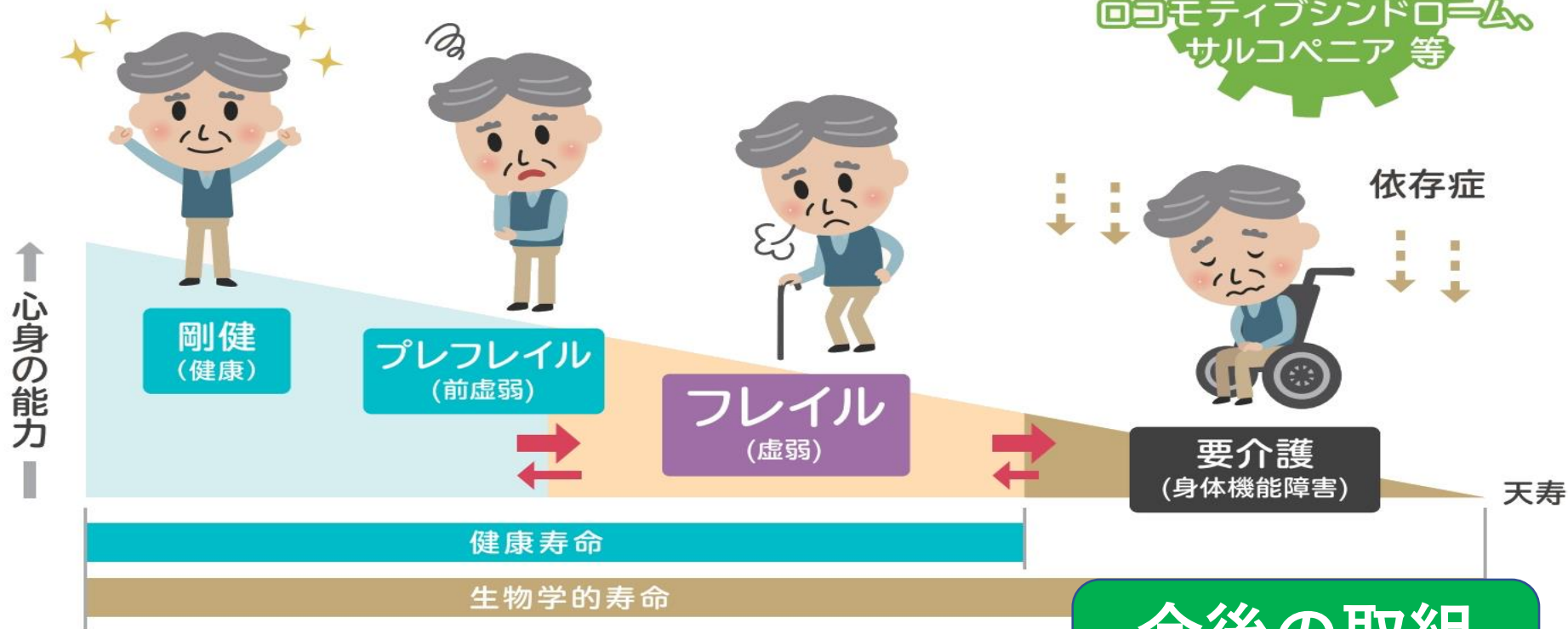
60代をピークに外来受診率低下

味覚の変化、口腔乾燥（ドライマウス）の増加

虚弱 (Frailty) → フレイル

- ① 中間の時期 (健康と要介護の間)
- ② 可逆性 (様々な機能を戻せる)
- ③ 多面的 (色々な側面)

加齢と共に、心身の活力が低下し、生活機能障害、要介護状態、そして死亡の危険リスクが高まった状態



※葛谷雅文 日老医誌 46: 279-285, 2009より引用改変

※東京大学高齢社会総合研究機構・飯島勝矢 作成

今後の取組
地域包括ケアシステム

フレイルへの影響度

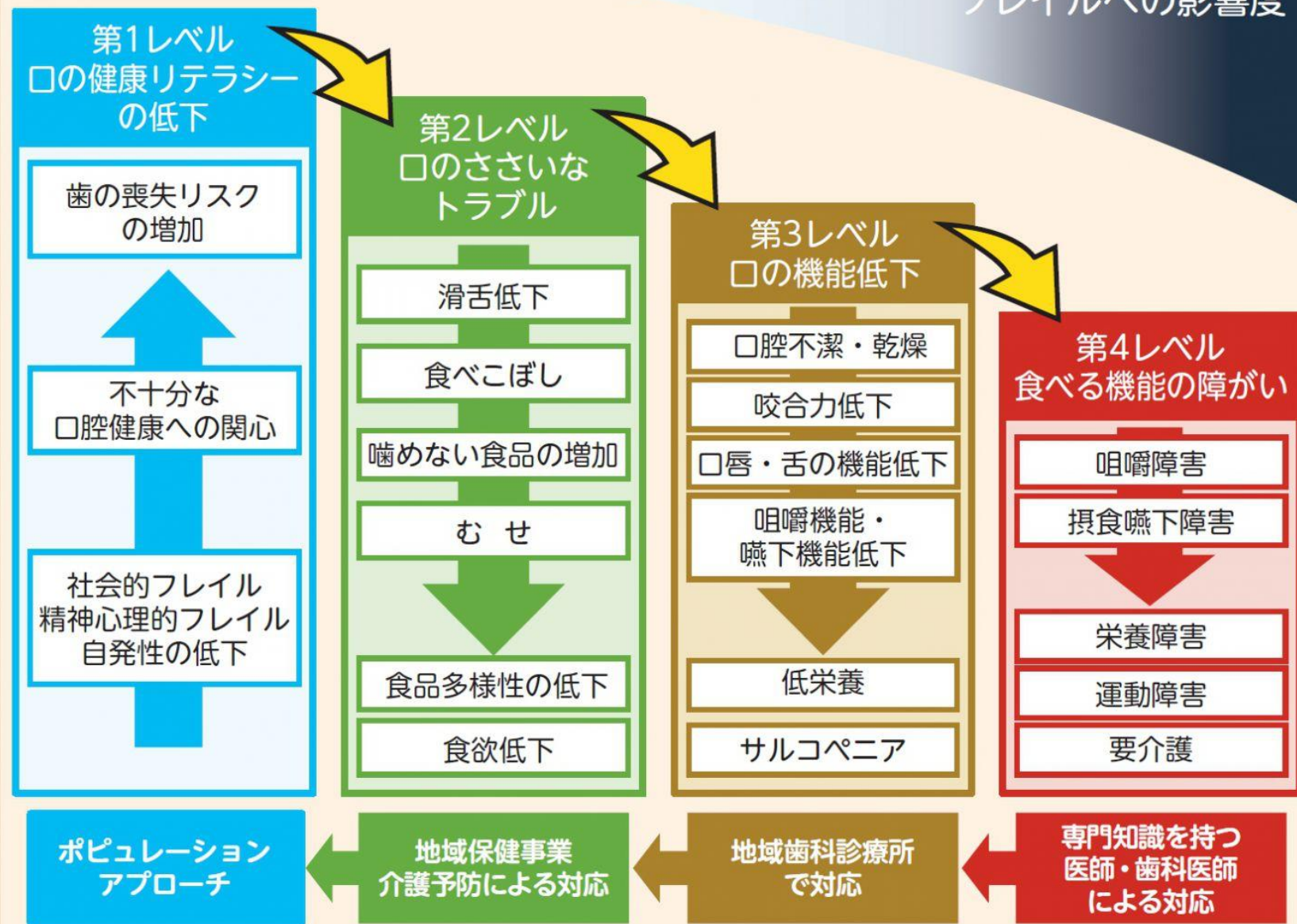


図 I -5 オーラルフレイル概念図 2019 年版

加齢による口腔機能の変化のイメージ

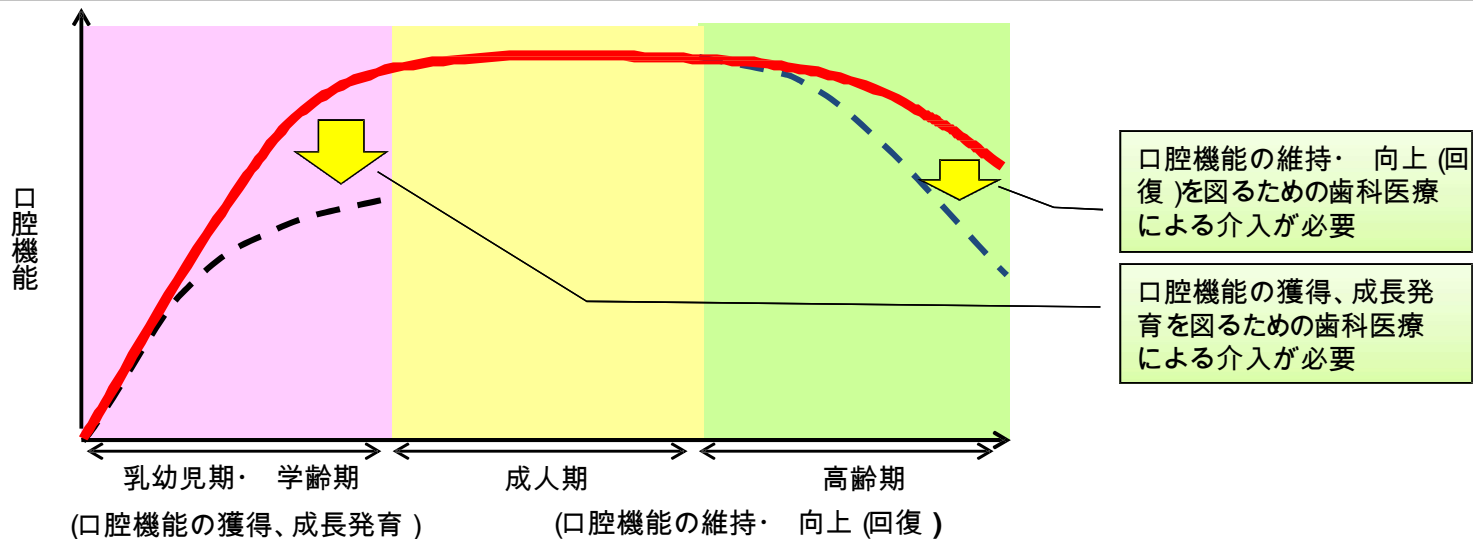
【歯科口腔保健の推進に関する法律 (平成23年法律第95号) 第12条第1項の規定に基づく基本的事項】

第一 歯科口腔保健の推進のための基本的な方針

三 生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上

食べる喜び、話す楽しみ等のQOL (生活の質) の向上を図るためには、口腔機能の維持・向上が重要である。

高齢期においては、摂食・嚥下等の口腔機能が低下しやすく、これを防ぐためには、特に、乳幼児期から学齢期 (高等学校を含む。)にかけて、良好な口腔・顎・顔面の成長発育及び適切な口腔機能を獲得し、成人期・高齢期にかけて口腔機能の維持・向上を図っていくことが重要である。



- 乳幼児期・学童期に適切な口腔機能 (咀嚼機能等) を獲得し、成人期に至った後、加齢に伴い (機能) 低下していくイメージ
- - - 乳幼児期・学童期に、歯科疾患や口腔機能の成長発育の遅れ等を生じ、歯科医療による介入が行われないイメージ
- - - 高齢期に、歯科疾患や全身疾患に伴う口腔 (内) 症状 (合併症) 等を生じ、歯科医療による介入が行われないイメージ

オーラルフレイルの定義

老化に伴う様々な口腔の状態（歯数・口腔衛星・口腔機能など）の変化に、口腔健康への関心の低下や心身の予備能力低下も重なり、口腔の脆弱性が増加し、食べる機能障害へ陥り、さらにはフレイルに影響を与え、心身の機能低下にまで繋がる一連の現象及び課程。

オーラルフレイルの妥当性

柏スタディ（縦断調査） Tanakaら

対 象：千葉県柏市在住 高齢者2,044名

期 間：45カ月

項 目：ささいな口の衰え

① 自分の歯が20本未満

② 滑舌の低下

③ かむ力が弱い

④ 舌の力が弱い

⑤ 「半年前と比べて硬いものがかみにくくなった」と思う

⑥ 「お茶や汁物でむせることがある」と思う

判 定： 0個 → 健常者

1～2個 → オーラルプレ・フレイル

3個以上 → オーラルフレイル

健常者とオーラルフレイル該当者の比較

身体的フレイル 2.4 倍

サルコペニア 2.1 倍

要介護認定 2.4 倍

総死亡リスク 2.1 倍

年齢
性別
手段的日常生活動作
BMI
認知機能
うつ傾向
居住形態
既往歴
服薬数
を調整
* 2年間での発生率

【オーラルフレイルの人が抱えるリスク】

* Tanaka T, Hirano H, Watanabe Y, Iijima K. et al. Oral Frailty as a Risk Factor for Physical Frailty and

Mortality in Community-Dwelling Elderly. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2017.

オーラルフレイルの意義

これまで老化、廃用として見過ごされていた口の機能低下を**可視化**

口腔機能低下に落ち込ませないためのキャッチフレーズ

高齢者の**行動変容**に繋げる

オーラルフレイル

当てはまるものありますか？

■ むせる・食べこぼす



■ 食欲がない
少ししか食べられない



■ 柔らかいものばかり
食べる



■ 滑舌が悪い
舌が回らない



■ お口が乾く
ニオイが気になる



■ 自分の歯が少ない
あごの力が弱い



健康・元気

口に関する“ささいな衰え”
が積み重なると・・・



オーラルフレイル
フレイル
病気

身近にいる高齢者

噛むと痛い、詰め物が取れたまま、歯が欠けたまま。

食事量が減った、以前に軟食指示が出ていたが、
もっと別のものを食べさせてやりたい。

義歯を持っているが壊れている、装着しないで食事している。

食事中に食べこぼし、ムセることが多くなった。

しばらく歯科治療していない、どこからか出血している？

歯医者にかかりたいと訴えがない。

前に腫れたことがあったけど、今は治ったのでは？

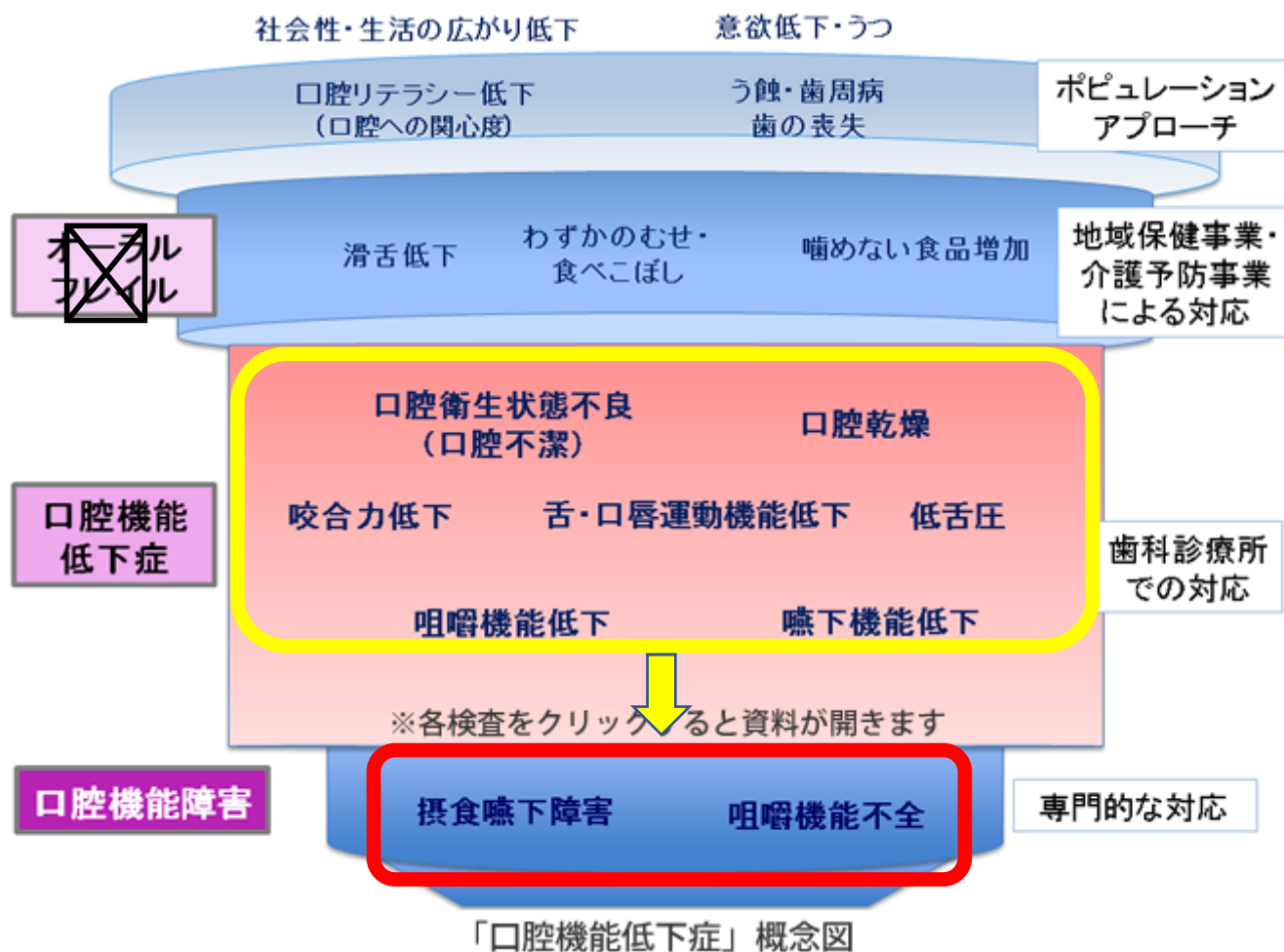
オーラルフレイルへの取り組み

『オーラルフレイル』をキャッチフレーズに！
口の中のささいな衰えが健康維持に深く関与

多職種連携に携わる人々への周知

地域住民（高齢者）、支える家族、支援者への啓発

健康な高齢者には行動変容に繋げる（自己管理）



低下の進行
↓
口腔機能障害
栄養障害から、全身の筋力低下や要介護状態。
不可逆的状态に陥らないよう継続的口腔機能管理
口腔機能低下症からの回復を目指すことが重要

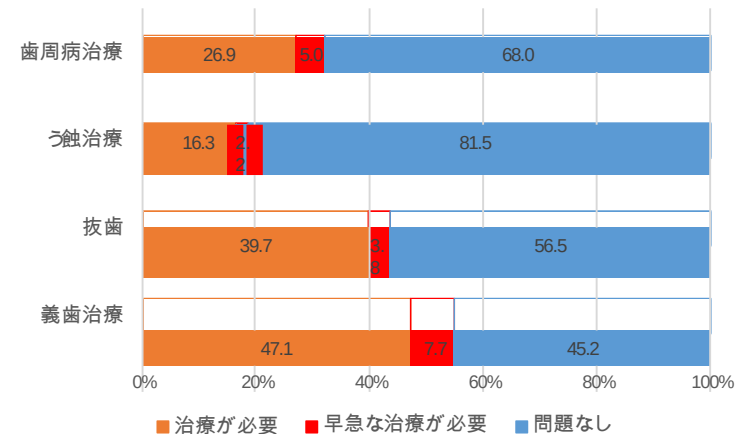
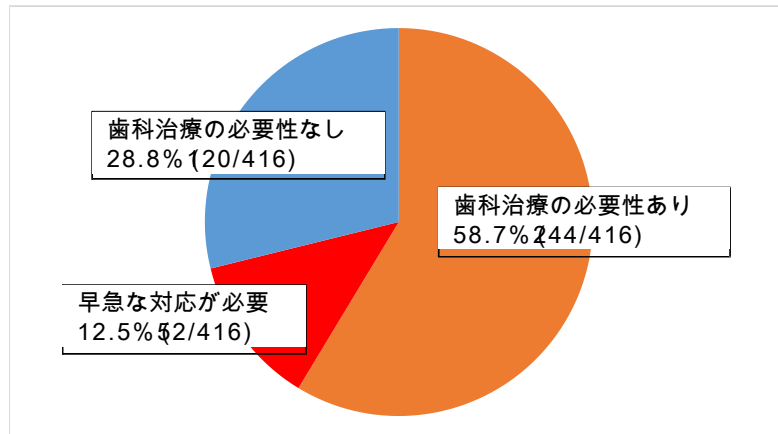
要介護高齢者における歯科対応の必要性

～ 地域の要介護高齢者に対する悉皆研究調査から ～

A県O町圏域の要介護高齢者416名（悉皆）に対する調査結果。義歯治療、抜歯、う蝕治療、歯周病の治療が必要な者は、それぞれ、54.8%、43.5%、18.5%、32.0%であった。

また、そのうち早急な対応が必要※1と判断された者は、それぞれ7.7%、3.8%、2.2%、5.0%であった。

（※1 食事に影響する強い痛みや炎症などがある、脱落の可能性が高いなど）
重複を除き、416名の要介護高齢者のうち義歯治療、抜歯、う蝕治療、歯周病の治療うち、どれか一つでも必要と判断された者は296名（71.2%）であった。



要介護高齢者の約7割が何らかの歯科治療を必要。
また、そのうち早急な対応が必要と判断された者は52名（12.5%）。